

令和6年1月10日

言葉だよりNo.9 (第419号)

## 「言葉の大切さ」

2年1組 井上

中学生のころの私は、勉強や部活動に追われ自分のことしか考えられなかった。思い通りにいかないことばかりで、嫌なことがあると自分の中にためこんで人に当たってしまっていた。人に相談することが苦手で、そんな自分が嫌だった。

以前、自分が思ったままに言った言葉で相手を傷つけたことがある。相手の行動が許せなくてひどい言い方で相手を責めてしまったのだ。いくら自分が嫌だったとしても相手を傷つけるまで言う必要があったのだろうか。その時の私は、自分の言葉の重さに気づけていなかった。後から「なんであんなことを言ってしまったのだろうか。考えて発言するべきだった」と後悔したが、傷つけてしまったことは消えてなくなることはない。

最近、SNSによる誹謗中傷の話題を見聞きすることが増えた。自分の発言に責任を持たない人が多くいると感じる。顔の見えない不特定多数の人が、心ない言葉を突きつけ人の心を深く傷つけている。場合によっては一生残る傷となる。誰にも相談できず、最終的には死を選んだ人もいる。

言葉は諸刃の剣である。凶器にもなれば、癒すのもまた人の言葉だ。私は学校生活の中で、自分の気持ちを抑え込んで無理をすることがよくあった。その様子をみかねた母に「人のことを気にするより、自分を大切にしてください。」と言われたことがある。私はその時、自然と涙があふれてきた。今までの自分から解放されたような気がして嬉しかった。周囲を気にして、しんどいことを我慢して、自分を偽らなくてもいいということに、この時初めて気が付いた。母はいつも私が悩んでいると優しく相談に乗ってくれる。そして、いつでも私の味方でいてくれる。そんな母を私は尊敬している。それからの私は、「嫌なことがあったら抱え込まずに、誰かに相談するようにしよう。」と思えるようになった。自分のことを大事にしながら前向きに考え行動することを心掛けている。

言葉の大切さに気付けた私は、困っている人がいたら声をかけ、悩みを聞いてあげられる人になりたいと思っている。その苦しい気持ちに寄り添ってあげたい。高校に入学して環境が変わり不安な毎日だったが、元気で明るいクラスメイトのおかげで頑張ることができた。残りの高校生活では、もっと人の気持ちに寄り添い周囲を元気づけられるような言葉がけと行動をしていきたい。そして、より成長していきたいと考えている。